

令和8年

壱岐市議会定例会6月会議

# 行政報告

壱岐市

# 目 次

<b>1. はじめに</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
（1）壱岐新時代プロジェクト及び未来シナリオシミュレーション	1
（2）郷ノ浦港ターミナル混雑に対する要望	3
（3）ふるさと納税の推進	3
<b>2. 交流人口の拡大</b>	
（1）観光施策の推進	5
（2）ツール・ド・壱岐島の開催	6
（3）ネーミングライツの決定	6
（4）サンドーム壱岐の活用	7
（5）壱岐の島ホール開館30周年記念事業の開催	7
<b>3. 産業の振興</b>	
（1）農業の振興	8
（2）水産業の振興	9
<b>4. 市民生活の維持</b>	
（1）子育て支援の充実	10
（2）市税等の収入状況	11
<b>5. 教育の推進</b>	
（1）壱岐市立郷ノ浦図書館の移転開館	12
（2）こどもたちの活躍	13
<b>6. 安全・安心なまちづくり</b>	
（1）防災対策の推進	13
（2）消防・救急の現状	14
<b>7. 議案説明</b>	
（1）補正予算	15
（2）その他の議案	15
<b>8. おわりに</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16

# 行政報告

令和8年壱岐市議会定例会6月会議

## 1. はじめに

本日ここに、令和8年壱岐市議会定例会6月会議にあたり、3月会議以降、本日までの市の重要事項及び政策などについてご報告申し上げます、議員皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

はじめに、令和8年春の叙勲・褒章において、本市から元壱岐市議会議員の<sup>いちやま しげる</sup>市山 繁 様が地方自治功労として旭日小綬章を、元壱岐市消防団副団長の<sup>さいとう あきら</sup>齊藤 章 様が消防功労として瑞宝単光章を、畜産業の振興にご尽力された<sup>やまもと みつとし</sup>山本 満年 様が黄綬褒章を、勝本小学校及び勝本中学校の教育振興のため、多額のご寄附を賜りました本市出身の<sup>なかむら ゆたか</sup>中村 豊 様が紺綬褒章を受章されました。

また、第28回長崎県葉たばこ振興協議会優良農家表彰事業において、<sup>まつもと のりお</sup>松本 則雄 様及び<sup>まつもと えいこ</sup>松本 栄子 様が長崎県知事賞を受賞されました。

この度、叙勲・褒章並びに表彰をお受けになられた皆様に対し、今日まで築かれたご功績に、深甚なる敬意を表しますとともに、心からお慶び申し上げます。

それでは、本日までの市政の重要事項などについて、ご報告いたします。

### (1) 壱岐新時代プロジェクト及び未来シナリオシミュレーション

本市では、第4次壱岐市総合計画に掲げる2050年人口2万人の維持に向け、昨年度から国・県の様々な補助を頂き、市民対話も重ねながら、壱岐新時代プロジェクトの具体化を図ってまいりました。

そして、3月30日には、壱岐新時代対話会を開催し、「4つのみなとプロジェクト」の構想と、AIを活用した未来シナリオシミュレーションの結果を発表したところです。

「4つのみなとプロジェクト」につきましては、4つの地域の産業や特性を最大限に活かし、地域の魅力をアップデートする試みです。

郷ノ浦の「つながりのみなと」プロジェクトでは、盈科小学校の移転を一つの選択肢として想定し、その跡地活用において、多世代が交流するセントラルパークを核とした交流施設の整備を、将来的な可能性として検討してまいります。

勝本の「あそびのみなと」プロジェクトでは、埋立地整備を契機に、地域内の回遊性を高め、港町の活気を取り戻す動線を整備いたします。

芦辺の「くらしのみなと」プロジェクトでは、空き家のリノベーションや仕事のシェアを通じ、二地域居住という新たな定住形態を提案してまいります。

石田の「まなびのみなと」プロジェクトでは、島全体をフィールドワークの場として開放し、「若者が挑戦し続けられる島」としてのブランド化を推進いたします。

さらに、これらの施策の有効性を検証するため、AIを活用し、2万通りもの予測を行う「未来シナリオシミュレーション」を実施しました。その結果、壱岐新時代プロジェクトを推進することで、人口減少に歯止めをかけられる可能性が科学的に示された一方、「理想的な未来へ進めるか、衰退の道を進むかの大きな分岐点が、わず

か2・3年後の2028年頃から到来する」という現実も浮き彫りになったところです。

2050年人口2万人という目標の実現には、個人・地域・行政が一体となって取り組むことが必要不可欠です。今後も市民の皆様との対話を重ねながら、本プロジェクトを力強く推進してまいります。

## **(2) 郷ノ浦港ターミナル混雑に対する要望**

現在、郷ノ浦港においては、ターミナル周辺の駐車場不足などにより慢性的な混雑が生じております。特に船舶の到着前後は送迎車両が集中し、市民や観光客の利便性を損なうだけでなく、バスやタクシーの運行にも支障を来している状況です。多くの利用者から抜本的な改善を求める声が強くなっており、5月26日に港湾管理者である県に対し、要望書を提出いたしました。

短期的には、市民のニーズを把握した上で、早期に効果が発現できる対策の実施を、そして中長期的には、郷ノ浦港ターミナル周辺の全体的な駐車場の再整備の推進を要望したところであり、今後、県知事に対しても同様に要望を行う予定としております。

市民皆様には多大なるご不便をおかけしておりますが、今後も県と連携して、混雑解消と利便性の向上に向けて、全力で取り組んでまいります。

## **(3) ふるさと納税の推進**

ふるさと納税の令和7年度実績は、寄附件数1万9,530件、寄附総額7億5,269万円であり、対前年比852件、約4,600

万円の減となりました。減少の主な要因は、昨年9月のポータルサイトでのポイント付与終了のほか、長引く物価高騰などが影響したものと捉えています。

ふるさと納税は、本年10月の基準見直しのほか、自治体間競争など、今後も厳しい状況が続いていく見通しですが、本市の主要施策実現のための貴重な自主財源でありますので、認定基準を遵守したうえで、返礼品事業者及び中間管理事業者と連携しながら、返礼品の開発や安定供給につながる支援策の検討、WEBマーケティングの強化など、第4次壱岐市総合計画に掲げる年間寄附額30億円を目指した取組を引き続き進めてまいります。

また、市民皆様には、島外にお住まいのご親族や友人・知人の皆様への寄附の呼びかけに、ご協力賜りますようお願いいたします。

企業版ふるさと納税につきましては、株式会社ファウンテック、九州郵船株式会社など、延べ9社から合計1,860万円のご寄附をいただいております。寄附金につきましては、壱岐ウルトラマラソンをはじめ、各企業が希望されました事業の財源として、有効活用させていただいております。

企業版ふるさと納税は、企業の思いや知見を地域づくりに活かすことができる重要な制度であり、人口減少をはじめとする社会課題が多様化する中、それらの課題に対応していくうえで、財源確保のみならず、大変有効な制度であります。

引き続きエンゲージメントパートナー制度と併せて、関係企業に本市の取組や地域資源に共感いただけるよう、積極的な情報発信を

行い、寄附に加えて、人的交流や新たな事業連携につながる関係構築を推進してまいります。

## 2. 交流人口の拡大

### (1) 観光施策の推進

本市における観光客数を推計する上で参考となる九州郵船及びオリエンタルエアブリッジの令和7年度の乗降客数は、62万1,280名で対前年比103.1%でありましたが、コロナ禍前の令和元年度と比較しますと、87.37%にとどまっており、依然としてコロナ禍前の水準に戻り切れていない状況です。また、本年のゴールデンウィーク期間中の乗降客数の速報値は、対前年度比で約103%との見込みとなっております。

このような中、本市では特定有人国境離島地域社会維持推進交付金（滞在型観光促進事業）を活用した長崎しま旅促進事業、対馬市との連携による壱岐市・対馬市周遊ツアー造成支援事業、外国人観光客誘致に向けた観光事業者対象セミナーなどのインバウンド誘客事業など、関係事業者及び関係団体の皆様と引き続き連携し、国内外観光客数の早期回復と、観光による地域経済活性化につながる施策に取り組んでまいります。

また、昨年度策定しました「壱岐市観光戦略2025～2027」は2年目のフェーズを迎え、高付加価値な観光地域づくり、受入環境の充実、セールス・プロモーションの充実からなる3つの基本戦略をより具体的に進めるため、市民皆様や観光関係事業者及び関

係団体の皆様と一体となり、各アクションプランに掲げる事業を推進してまいります。

## **(2) ツール・ド・壱岐島の開催**

本年度も本市の一大イベントである「ツール・ド・壱岐島2026」を、6月7日に開催いたしました。今年の大会にも全国各地から、また海外では台湾からもエントリーがあり、総計で436名のエントリーをいただき、盛大に開催することができました。

市民皆様には、一部交通規制へのご理解と、温かいご声援・ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。また、大会実施にご協力をいただきました関係機関、壱岐市消防団並びに各種ボランティアスタッフの皆様に対し、改めて深く感謝を申し上げます。

## **(3) ネーミングライツの決定**

壱岐市ネーミングライツ事業実施要綱に基づき、石田スポーツセンターの愛称を付ける権利を取得する企業を公募しましたところ、株式会社ファウンテック様からご応募をいただき、施設の愛称を「ファウンテックアリーナ」、略称「ファン・アリ」とすることを決定しました。

ネーミングライツの期間は、令和8年6月22日から令和13年6月21日までの5年間、命名権料は年額50万円（総額250万円）となります。なお、6月22日には同スポーツセンターにて、御披露目式を予定しております。

市民皆様におかれましては、新しい愛称「ファウンテックアリーナ（ファン・アリ）」に親しんでいただくとともに、なお一層のご利

用をお願いいたします。

#### **(4) サンドーム壱岐の活用**

遊休施設となっているサンドーム壱岐につきましては、民間が保有するノウハウを最大限に生かした新たな起業促進や雇用創出など、地域の活性化に資する利活用を図るため、公募型プロポーザルを実施し、応募のあった法人から提出された提案書に対する評価・審査を終え、現在、契約締結に向けた準備を進めているところです。

また、行政財産から普通財産へ変更して貸付を行うため、サンドーム壱岐条例を廃止する議案を提出しておりますので、ご審議賜りますようお願いいたします。

#### **(5) 壱岐の島ホール開館30周年記念事業の開催**

本年度、平成8年2月11日に開館した壱岐の島ホール（壱岐文化ホール）が開館30周年の節目を迎えるにあたり、「2024年第12回浜松国際ピアノコンクール」で日本人初となる第1位に輝かれた<sup>すずき まなみ</sup>鈴木 愛美 様によるピアノリサイタルを、6月27日午後1時から壱岐の島ホール大ホールにて開催します。

今回のリサイタルは、第1部が市内音楽教室の生徒皆さんによる演奏会、第2部で鈴木様のピアノリサイタルという構成になっております。なお、入場は無料（全席自由）ですが、整理券が必要となっております。6月1日から壱岐の島ホール事務所にて配布しているほか、壱岐市ホームページのL O G Oフォームからお申し込みいただけます。

市民皆様におかれましては、ぜひこの機会に、世界に響く素晴ら

しいピアノ演奏をお楽しみいただければと思います。

### **3. 産業の振興**

#### **(1) 農業の振興**

令和7年度の本市農業生産額は、前年比112%の58億6,800万円となり、そのうち畜産物が39億9,200万円で、約7割を占めています。

また、水稻については、栽培面積787haのうち、高温耐性品種の「つや姫」、「にこまる」、「なつほのか」への作付けが全体の約65%に達しており、販売金額は前年比170%の10億2,700万円となりました。

畜産においては、全国的な繁殖農家の高齢化や離農による子牛販売頭数の減少などにより、子牛価格の高騰が続いています。本市の令和7年度の子牛出荷頭数は3,627頭で、前年度より445頭の減となったものの、子牛平均価格は68万7千円と前年比14万6千円高となりました。

また、4月子牛市では平均価格が86万円を超え、6月1日・2日に開催された子牛市では、4月と比較し、1頭当たり約1万9千円安の84万2千円となりましたが、依然高い水準を保っております。

葉たばこについては、移植期以降、順調な生育となっており、4月上旬に強風を受けましたが、被害は軽微であり、5月中旬から収穫が始まり、現在のところ作の揃いも良く、順調に生育している状況です。

馬鈴薯（壱岐黄金）については、令和7年産の春作・秋作を合わせて耕作面積14.2ha、出荷量189.9トン、生産額は5,093万円で前年比212%となり、令和8年産の春作も3月下旬から平年より暖かく気温が推移し、適度に降雨があったことから生育は順調で、昨年を上回る反収が期待されます。

農業の持続的発展には、担い手対策が最重要課題であり、地域農業の牽引者である認定農業者の育成、新規就農者や集落営農組織など、多様な担い手の確保を重点事業と位置づけ、効率的かつ安定的な農業経営に向けた取組に対する支援を進めてまいります。

今回、壱岐市農業協同組合が実施します馬鈴薯集出荷施設の更新及び新規就農者用リースハウスの整備などに対し、国・県事業の内示を受けたところであり、所要の予算を計上しておりますので、ご審議賜りますようお願いいたします。

## **（２）水産業の振興**

令和7年度の本市の漁獲量及び漁獲高を昨年度と比較いたしますと、漁獲量は13%増の約1,964トン、漁獲高も27%増の約26億8千万円と、漁獲量・漁獲高ともに増加しております。

これは、主に大型クロマグロの漁獲枠が、増枠配分されたことによるものでありますが、本市の水産業を取り巻く環境は、漁獲の減少、魚価の低迷、漁業者の高齢化並びに後継者不足など、依然として厳しい状況が続いており、さらに最近の中東情勢の影響を受け、漁業用燃油や魚箱などの生産コストも高騰しております。

今後も実態を調査し、漁業者及び漁協の意見などを踏まえたうえ

で、県への要望につなげてまいります。

また、本市の重要施策である磯焼け対策については、イスズミなどの植食性魚類駆除をはじめとした藻場の再生に、積極的に取り組んでおり、漁業者皆様のご協力により、令和7年度までにイスズミを約4万尾、アイゴを約46トン駆除しております。

その結果、壱岐南西部の海域で藻場が回復しており、令和7年には昨年より倍の717haの藻場の群落を確認しております。また、この藻場について、Jブルークレジットを申請した結果、1,303t-CO<sub>2</sub>の認証を受けており、今後、クレジットの公募・販売を進め、その収益を活用して、さらに磯焼け対策を拡充させてまいります。

## 4. 市民生活の維持

### (1) 子育て支援の充実

6月の機構改革により、妊娠・出産から高齢期までを一気通貫で支援する体制を確立するため、保健環境部から健康未来部に名称を変更し、子育て支援課の業務を健康未来部へ移管いたしました。

教育委員会と同じ庁舎となることで、幼保連携に係る取組を加速させるとともに、関係各課との連携を強化し、妊産婦、子育て世帯及び子どもたちへの支援の充実に努めてまいります。

認定こども園については、既存の公立保育所及び幼稚園の活用により、勝本町における認定こども園化について、令和9年度の開設に向け、今後、保護者及び地域の皆様への説明会の実施や長崎県へ

の手続きなど、各関係機関と連携しながら準備を進めてまいります。

## **(2) 市税等の収入状況**

令和7年度の市税の収入状況については、現年度分は調定額23億2,765万円に対し、収入額23億582万円で、収納率は99.06%となり、前年度99.2%を0.14ポイント下回りました。

滞納繰越分は、調定額1億121万円に対し、収入額993万円で、収納率は9.81%となり、前年度16.03%を6.22ポイント下回りました。なお、市税全体の合計収納率は95.34%となり、前年度の95.01%を0.33ポイント上回っています。

また、国民健康保険税については、現年度分が調定額5億747万円に対し、収入額4億8,809万円で、収納率は96.18%となり、前年度96.56%を0.38ポイント下回りました。

滞納繰越分は、調定額8,917万円に対し、収入額1,476万円で、収納率は16.55%となり、前年度14%を2.55ポイント上回りました。なお、国民健康保険税全体の合計収納率は84.28%となり、前年度81.82%を2.46ポイント上回っています。

また、令和4年度以降導入したコンビニエンスストア、スマートフォンアプリ及びQRコード決済による納付については、1万3,632件の利用実績でした。各種納付方法については、納税通知書の送付時にチラシを同封するなどにより、お知らせしています。

市では口座振替納付を推進しており、口座振替することで、納付に行く手間が省けることや、余分な現金を持ち歩く必要がないことで安全・安心な納付につながること、金融機関窓口及びコンビニエ

ンスストアでの納付時に、市が負担する手数料を抑制できることなどのメリットがありますので、市民皆様には口座振替での納付についてご協力をお願いいたします。

また、令和8年1月から、金融機関に出向くことなく、スマホやパソコンからの口座振替の申し込みが可能になりましたので、ご活用をお願いいたします。

今後も、市行政の基幹財源である税の確保と公平・公正な税務行政の実現に向けて取り組んでまいりますので、市民皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## 5. 教育の推進

### (1) 壱岐市立郷ノ浦図書館の移転開館

老朽化や駐車場不足といった問題を解消するため、壱岐の島ホール旧106会議室への移転作業を進めておりました郷ノ浦図書館が、半年間の休館期間を経て、4月25日に新たに移転開館いたしました。

新館では、目的の本が探しやすい配置と壱岐に関する郷土資料の充実に力を入れており、また、限られた空間の中で勉強スペースや検索用のパソコンを設置するなど、利用者の利便性や快適性の向上も図っております。

今後も改善を重ね、これまで以上に市民皆様に親しまれ、学びと交流の拠点となるような図書館を目指してまいります。

## **(2) こどもたちの活躍**

5月に開催された「全日本卓球選手権長崎県予選会」小学4年生以下の部において、那賀小学校3年 <sup>ひらの ゆきと</sup>平野 幸人 さんが準優勝の成績を収められ、7月に長崎県で開催される九州大会及び兵庫県で開催される全国大会への2年連続出場が決定しました。

他の競技にあっても、各種、島外大会への参加をはじめ、数多くのこどもたちが文化・スポーツ活動に取り組んでくれています。こどもたちの活躍を大変うれしく、頼もしく思いますとともに、こどもたちが今後も一層の成長と飛躍を遂げられるよう、市としても引き続き支援してまいります。

## **6. 安全・安心なまちづくり**

### **(1) 防災対策の推進**

国が進める総合的な防衛体制のための公共インフラ整備における特定利用空港・港湾指定の追加検討において、長崎県が管理する「福江港」「対馬空港」「壱岐空港」が対象候補となっていることが、6月9日に県から公表されました。

この制度は、大規模災害などの有事や緊急事態への対応を見据え、平時から自衛隊や海上保安庁の航空機・船舶が円滑に利用できるよう訓練などを行うことで、有事における迅速な救助活動や物資輸送を可能とし、地域住民の生命と暮らしを守ることを目的とするものです。現時点では、国から県に対する打診段階であり、具体的な指定内容や運用方法については、今後示されるものと考えております。

本市といたしましては、対馬市及び五島市とも情報共有を図るとともに、国・県に対して説明を求めるなど、制度内容の把握をはじめ、地域や市民生活への影響などについても確認するとともに、市民皆様への情報提供を行いながら、慎重に検討を進め、議会とも連携して適切に対応してまいります。

次に、近年、全国各地で頻発化・激甚化する風水害や大規模地震は、「いつ、どこで発生するか」、予測が困難な状況にあります。

これから集中豪雨、台風などの自然災害が起こりやすい時期を迎えるにあたり、被害を最小限に抑えるためには、市民皆様お一人おひとりが「自らの命は自らで守る」という強い意識、すなわち「自助」の取組が重要となってまいります。

そのため、「広報いき」6月号にも掲載しておりますが、避難の際に持ち出す備蓄品や日常的に利用している食品を、少し多めに買い置きし、賞味期限の古いものから消費し、その分だけ新しく買い足す、食品備蓄の方法「ローリングストック」を実践されるなど、さらなる防災意識の向上に努めていただきますようお願いいたします。

## **(2) 消防・救急の現状**

第8期消防団の編成替えに伴い、安川<sup>やすかわ</sup>昭彦<sup>あきひこ</sup>団長が再任されました。消防団員数は年々減少しており、昨年同時期に比べて43名減の744名ですが、本市にとって消防団はなくてはならない存在であり、あらゆる災害への対応やイベントにもご協力いただいております。

壱岐市といたしましても、団員の確保に努めるとともに、消防団

をはじめとする関係機関と連携を図り、防災体制に万全を期してまいります。

また、今後、気温の上昇とともに、熱中症による救急搬送の増加が危惧されますので、屋外での作業の際は、こまめな水分補給を行なっていただくとともに、室内においても熱中症の恐れがありますので、エアコンや扇風機を有効に使用し、体調管理に十分ご注意くださいようお願いいたします。

## **7. 議案説明**

次に、議案関係についてご説明いたします。

### **(1) 補正予算**

本議会に提出した令和8年度補正予算の概要は、一般会計補正額2億7,902万5千円となります。

なお、現計予算と合算した本年度の一般会計予算は、250億2,902万5千円となっています。

### **(2) その他の議案**

本日提出いたしました案件の概要は、条例の専決処分の報告2件、損害賠償の額の決定に関する専決処分の報告1件、令和7年度予算の専決処分の報告1件、予算の繰越計算書の報告2件、条例の一部改正・廃止に係る案件5件、計画の策定1件、予算案件1件となっております。

何とぞ慎重にご審議をいただき、適正なるご決定を賜りますようお願いいたします。

## 8. おわりに

以上をもちまして、3月会議以降の市の重要事項及び政策などについてご報告いたしました。様々な行政課題に対し、今後も誠心誠意、全力で取り組んでまいりますので、議員各位並びに市民皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年6月11日

壱岐市長 篠原 一生